

アンサンブル・リベラ・バロッコ コンサート 2019

古楽器の楽園

札幌出身のバロック・オーボエとリコーダーの名手 江崎浩司氏を迎えて
オーボエ、フルート、ヴァイオリン、リコーダー
バロックの旋律楽器による器楽曲集



Ensemble Libera Barocco

新林 俊哉 バロック・フルート、リコーダー

吉野 聖子 バロック・ヴァイオリン

江崎 浩司 (客演)

バロック・オーボエ
リコーダー

2019 6月30日

札幌市資料館 2階研修室
13:30 開場 14:00 開演

■主催：アンサンブル・リベラ・バロッコ

■後援：札幌市、札幌市教育委員会、北海道新聞社

～ PROGRAM ～

◆ Pierre Danican Philidor (1681-1731) フランス

P. D. フィリドール : 2本のフルートのための組曲 Op.3-11

1. Rondeau en Contrefaiseurs 3/4
2. Allemande 4/4
3. Air en Sarabande. Tenderment 3/4
4. Gavotte 2/2
5. Fugue. Pas trop viste 2/4

Vf1 江崎浩司/Vf2 新林俊哉

フィリドールは17-18世紀にフランスで活躍した音楽家一族で、このピエール・ダニカン・フィリドールは後期バロックに位置する若い方の世代にあたります。P. D. フィリドールは全3巻からなる12の組曲を残しており、6曲は旋律楽器と通奏低音による一般的な組曲ですが、残りの6曲は2つの旋律楽器による二重奏になっています。とてもフランス的な優雅な中にも、新しい時代のエスプリが感じられる曲です。第一楽章には「真似っ子のロンド」という表題が付いており、カノン風な作りになっています。なお、P. D. フィリドールの従兄弟にあたるフランソワ＝アンドレ・ダニカン・フィリドールは、もちろん音楽家としても活躍しましたが、当時は世界でも指折りのチェス・プレーヤーとしても有名で、チェスに関する書物を多数残しております。(新林俊哉)

◆ Carl Philipp Emanuel Bach (1714-1788) ドイツ

C. P. E. バッハ フルートとヴァイオリンのためのデュエット Wq140

1. Andante 3/4
2. Allegro 2/4
3. Allegretto 3/8

Ft 新林俊哉/Vn 吉野聖子

C. P. E. バッハはJ. S. バッハの2番目の息子で、数多いバッハの子供達の中でも音楽家として最も活躍しました。1738年に若干24歳でプロイセンのフリードリヒ大王の宮廷にチェンバロ奏者として召され、新進気鋭の鍵盤奏者として活躍しました。仕えていたフリードリヒ大王が大のフルート好きで、フルート奏者のクヴァンツを重く召し抱え、また王自身もフルートを上手に演奏した事もあり、エマヌエル・バッハもフルートを含む曲を数十曲残しております。作品全体としては圧倒的に鍵盤作品が多いですが、エマヌエル・バッハのフルート作品はバロック・フルートの貴重なレパートリーとなっています。この曲が作曲されたのは1748年で、父であるJ. S. バッハの亡くなる2年前の事です。バロックから古典派への橋渡しとなる時代でギャラント様式や多感様式と呼ばれますが、この作品にも父である大バッハとは違う、若々しさと新鮮さが感じられます。(新林俊哉)

◆ Michel Pignolet de Montéclair (1667-1737) フランス

M. P. de モンテクレール : 2本のフルートのためのコンセール 第6番 イ短調

1. Allemande 2/4
2. Forlana 2
3. Passacaille 3/4
4. le Papillon Menuet 3/4
5. Le Moucheron. Passepiéd 3/4
6. Prelude 3/4
7. Bouree - Double 2/4
8. Gavotte 2/4
9. Sicilienne 2/4
10. Sarabande 3/4
11. Chaconne 3/4

Ft 新林俊哉/Ob 江崎浩司

モンテクレールの生涯については残念ながらほとんど知られておらず、確実な肖像画も残されておりません。9歳の時に聖歌隊学校に入ったという記録が残っています。作曲家として残されている作品も少なく、いくつかのカンタータがありますが、「フルートと通奏低音のための6つコンセール」そして「2本のフルートのための6つコンセール」はバロック・フルートにとって貴重なレパートリーとなっています。この通奏低音を伴わない2本のフルートのための曲は同時代のフランスの作曲家・フルート奏者「ミシェル・デ・ラ・バル」によって始められ、その後モンテクレールの他、オートテル、フィドール、ボワモルティエらに受け継がれて行きました。モンテクレールのコンセールは当時のフランス組曲の形式に則り、いくつかの舞曲で構成されていますが、この曲のように途中でプレリュードがあるなど、ほとんど2曲分の構成になっているものが少なからずあります。面白い副題が付いている楽章もあり、4楽章は「蝶のメヌエット」、5楽章は「蚊(ぶよ)のパスピエ」です(パスピエは3拍子の軽やかな速いテンポの舞曲)。録音や演奏機会も少ない曲ですが、もっと見直されても良い名曲と思い、今回のプログラムで取り上げてみました。原曲はロ短調ですが本日はフルートとオーボエの構成でイ短調で演奏いたします。(新林俊哉)

～ PAUSE ～

◆ Jacob Van Eyck (1589/90-1657) オランダ

J. V. エイク : 「笛の楽園」より

Rec. 江崎浩司

ヤコブ・ファン・エイクはオランダのユトレヒトを中心に活躍した鐘に関する専門家で、複数の鐘で演奏するカリヨン奏者であり、リコーダー奏者 & 作曲家であり、生まれた時から盲目であった。「笛の楽園」は約150曲による独奏曲集で、当時の流行歌、賛美歌、器楽曲などをテーマとしながら変奏曲としたものだ。(江崎浩司)

◇ No.115 ナイチンゲール Den Nachtegael 使用楽器 ガナッソ・ソプラノ Rec

イギリスから伝わった曲で、鳥の鳴き声の模倣ではあるが、驚く事に歌曲としても存在している。人気作品である。

◇ No.8 涙のパヴァーナ Pavaen Lachrymae ガナッソ・ソプラノ Rec

イギリスのJ.ダウランドの名曲。多くの編曲がある中、唯一エイクは笛の独奏曲として扱った。

◇ No.42 心地よい夏 De zoete Zoomertyden ルネサンス・ソプラニーノ Rec

旋律は「オーロラのバラ色の頬(ほほ)」とも言われ、「心地よい夏」としては1663年サムベック作のオランダ歌曲集に見られる。歌詞には「小鳥の心地よい歌声」とあり、愛らしい。

◆ Joseph Bodin de Boismortier (1689-1755) フランス

J. B. ボワモルティエ : フルートとヴァイオリンのためのソナタ 第2番 ホ短調 Op.51-2

1. Vivace 3/4 2. Allegro 3/8 3. Aria Affettuoso 2/2 4. Giga 6/8

Ft 新林俊哉/Vn 吉野聖子

ボワモルティエはフランスの作曲家で、器楽曲や声楽曲、劇音楽まで幅広い分野で活躍し、テレマンに劣らない多作家でもありました。独自に出版活動を始めて、教会や王侯貴族の庇護を受けずに楽曲の出版のみで生計を立て財を成した当時としては稀有な作曲家です。無伴奏の二重奏の作品も多数残されていますが、ほとんどはフルート2本で演奏できるように作曲されています。唯一この曲集だけは第2パートがヴァイオリンを念頭に作曲されており、重音が多用されています。(新林俊哉)

◆ Georg Philipp Telemann (1681-1767) ドイツ

G. Ph. テレマン : 2本のリコーダーのためのソナタ 第4番 ト短調 TWV40:104

1. Largo 3/2 2. Allegro 4/4 3. Affettuoso 4/4 4. Vivace 2/4

Rec1 江崎浩司/Rec2 新林俊哉

テレマンはドイツの作曲家で、当時はバッハよりも人気があり、3000曲を越す多作と楽譜の出版で収入を得ていた事でも有名で、自身でも鍵盤楽器の他、いろいろな楽器を達者に演奏したそうです。通奏低音を伴わない2重奏は4冊ありますが、その最初出版された曲集です。タイトルには「2本のフルート、ヴァイオリン、(またはリコーダー)のためのソナタ」と書かれています。当時はD管のフルート曲をF管のアルトリコーダーで演奏する場合は短3度上に移調して演奏する事が一般的に行われており、この楽譜にもその指示が書かれています。アルトリコーダーで演奏する事で、より華やかに躍動感溢れる演奏でお聴き頂けるものと思います。(新林俊哉)

◆ Joseph Bodin de Boismortier (1689-1755) フランス

J. B. ボワモルティエ : 3本の旋律楽器のためのトリオによるソナタ ホ短調 Op.7-6

1. Moderement 3/4 2. Courante 3/4 3. Tenderment 3/2 4. Gigue 6/8

Ft 新林俊哉/Vn 吉野聖子/Ob 江崎浩司

ボワモルティエが音楽活動を職業として本格的に始めたのはとても遅く、30歳中ばにパリに移り住んでからでした。それ以前はタバコ製造に関わったりしておりましたが、パリに移ってからは、精力的に作曲活動を始めて、当時の音楽先進地であるイタリア様式を一早く取り入れてフランスにもたらした作曲家の一人です。フルート奏者としての活動はありませんでしたが、フルートのための作品を非常に多く残しております。新しい楽器構成にも積極的に取り組み、通奏低音無しのフルート二重奏も多数の作品がありますが、このフルート3本の三重奏の他、5本のフルートの為のコンチェルトなどもあります。これらの無伴奏の重奏曲は、同じ楽器で演奏される事が多いのですが、本日はフルート、ヴァイオリン、オーボエの3つの異なる旋律楽器の演奏でお聴き頂けます。(新林俊哉)

ご挨拶

本日は私共アンサンブル・リベラ・バロッコの演奏会にお越し頂きありがとうございます。昨年、「リコーダーによるバロック音楽」というタイトルで演奏会を行いました。今回は更に一歩進めて、リコーダーの他に当時主要な旋律楽器として使われていた、ヴァイオリン、フルート、オーボエを取り混ぜて、様々な旋律楽器によるプログラムを御用意致しました。本日演奏する曲は、バロック音楽の特徴である通奏低音の無い、旋律楽器だけの為に書かれた2重奏、3重奏の曲に絞って選んであります。また今回の演奏会は、札幌出身で古楽の世界は元より、幅広いジャンルで御活躍されている江崎浩司氏のお力をお借りしてようやく実現する事ができたもので、改めて謝意を表します。そして江崎氏が現在全曲録音に取り組んでいる「笛の楽園」から代表曲をお聴き頂ける事を心より嬉しく思います。

PROFILE

江崎 浩司 Baroque Oboe & Recorder

桐朋学園大学古楽器科卒業。第10回古楽コンクール第2位。ブルージュ国際コンクール・アンサンブル部門第2位及び聴衆賞を獲得。ソロCD多数リリースし「ヘンデル/リコーダーソナタ」が朝日新聞特選盤、「テレマン/12のメーディッシュ・ゾナーテンVol.1&2」が'14年レコードアカデミー賞に輝く。NHK音楽プラボー「名曲アルバム」他テレビ、ラジオに出演。'10年シルク・ド・ソレイユの演奏メンバーに合格。落語とのコラボレーション作品「死神」が文化庁芸術祭ノミネート。日本初の野球オペラ「野球カンタービレ」脚本作曲指揮。ベースボール音楽家としても活躍し、'17年神宮球場にてマスターズ甲子園東京大会決勝の国歌独奏および始球式をつとめた。現在「タブラトゥーラ」他メンバー。'16年より世界的録音となるV.エイク作「笛の楽園」全150曲全曲録音開始。発売中の第1~4集はレコード芸術誌特選盤に輝く。昭和音楽大学非常勤講師。



新林 俊哉 Baroque Flute & Recorder

北海道大学電子工学科卒業。バロック・フルートを中村忠、高橋理恵子、佐藤こずえ各氏に、フルートを熊本利絵氏に師事。またリコーダーを江崎浩司、岩田泰氏に師事。各地の音楽祭、セミナーにてバルトルド・クイケン、有田正広、花岡和生各氏のレッスンを受ける。古楽アンサンブル・リベラ・バロッコ、モンテクレールアンサンブルを主宰し、バロック室内楽を中心にカンタータ、コンチェルトなど多数の演奏活動を行っている。また、ルネッサンス・フルートからアイリッシュ・ホイッスル、ケーナなど多種の笛を使った「いろいろな笛」コンサートを開催している。



吉野 聖子 Baroque Violin

藤女子大学文学部国文学科卒業。中学・高校生のときに札幌音楽院バロックグループにてコレリ、ヘンデル等の合奏曲に取り組む。2000年札幌古楽の夏音楽祭に参加。以来、寺神戸亮氏、若松夏美氏のレッスンを受講するなどバロック・ヴァイオリンも研鑽中。アルス室内合奏団所属。



ご来場ありがとうございました。